

第240回研究科委員会・第346回教員会議 議事録

日 時：令和5年1月11日（水） 13：30～15：50

場 所：後援募金記念棟 会議室1-3

議 題

◆研究科委員会◆

冒頭、研究科長から新年のあいさつがあった。年末の危機対策本部会議によると、学位記授与式は2部制で開催される。第1部は10時から開始され、卒業生と保護者を会場に入れる予定である。最終的には今後の危機対策本部会議で決まる。在学生は構内に立ち入れない予定である。新型コロナウイルス感染状況は、学生・教職員ともに増えている。教職員の感染者は約70名（10数%）となっている。大学入学共通テストや本学入試を控えて準備を進めている。入試は原則実施する方針であるが、状況に応じて総合的に判断する。

大学院改革関連では、運営会議資料1により大学院専修免許状教職課程の認定を正式に受けたことが報告された。理工ではR1年度からの既存課程<中(理・技)、高(理・工・情)>に加えて、中学校(数)と高等学校(数)が新たに認められた。食農科学研究科において、12月2日付けで「教員の新規採用」1人(講師)、「職位の変更(准教授から教授に変更)」6人に係る「専任教員採用等設置計画変更書類(AC教員審査)」を提出したとの説明があった。資料2-1により第12回大学院教育プログラム連絡調整会議での検討状況の説明があった。研究科規程や他専攻科目の履修、予算関係、プロジェクト研究について検討されている。資料2-2に基づき大学院関連「運営計画」への対応についての説明があった。運営計画全体像の表に記されている評価指標の説明があった。学類(研究科)運営計画では、地域課題、定員充足、I期・II期入試、修士の研究成果の説明があった。同資料4ページの基本サイクルで評価指標No.5-1-3の説明があり、令和4年度は、「学会等の成果発表件数」の定義(範囲)を確定、・試行的に令和3年度実績を集約し、集約方法を確定、・令和3年度実績を踏まえ目標値の仮設定を行うこととなっており、今後毎年度確認していくにあたり協力依頼があった。資料2-3では大学院再編影響額シミュレーションの内容が紹介された。冒頭の3行の説明や△マークの説明、定員充足に伴う教育費国庫納付額の減の説明があり、このシミュレーション結果では収入支出増減額(合計)がマイナスになっていないことが報告された。資料2-4では今後の課題とスケジュールの表が紹介された。

教授から、コロナ関連で教員親睦会についての質問があり、研究科長から学類教員会議後の教員親睦会で検討するとの返答があった。

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 共生システム理工学研究科規程等の一部改正について

資料1に基づき改正の要点の説明があった。特に意見はなく承認された。

2. 学生生活委員会

(1) 学生表彰申し合わせについて

資料2に基づき説明があった。教授から採点について質問があり、委員長から得点表については学生生活委員会から依頼するとの返答があった。別の教授からすべてのM2が対象かとの質問があり、委員長からそうであるとの返答があった。准教授から、副査の人数が多い場合について質問があり、委員長から平均点を使うとの返答があった。教授から分野によって、さらに人によって点数が違うのではとの質問があり、委員長から結果をみて次年度調整していきたいとの返答があった。別の教授から得点のバランスをみてやったほうがよいのではとの意見があった。研究科長から今年度から実施するののかとの質問があり、委員長から今年度から実施し、調整は来年度から行いたいとの返答があった。研究科長から理工だけのルールなののかとの質問があり、委員長からそうであるとの返答があった。さらに別の教授から今までは論文等の評価も入っていたとの指摘があり、委員長から学業と研究をわけ今回は学業分であるとの返

答があった。研究科長から人数についての質問があり、委員長から最高得点者としてほしいとの返答があった。准教授から評価項目について発表会で点数化するのかとの質問があり、委員長から発表会の内容を点数化し、発表時に3項目で評価するとの返答があった。准教授から評価方法を統一したほうがよいのではとの質問があり、委員長から事前に説明をしたい、アドバイスに感謝するとの返答があった。研究科長から修士の合否判定とは別かとの質問があり、委員長からその通りとの返答があった。教授から修士の成績分布について質問があり、委員長から教務に聞いてほしいとの返答があった。このほか質問はなく、提案通り承認された。

3. 国際交流センター運営会議

(1) 2022(令和4)年度特別聴講学生(共生システム理工学研究科)の受入れについて
回収資料に基づき、コロラド州立大学から超短期受入学生2名を2023年2月2~10日に受け入れたいとの説明があった。特に質問はなく承認された。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 令和4年度博士前期課程最終試験日程について
資料3に基づき説明があった。運営会議資料とは一部変更になっているので、注意してほしいとのアナウンスがあった。

(2) 令和4年度博士後期課程最終試験日程について
資料4に基づき説明があった。2月16日の午前中は修士論文最終試験が残っているため、13時からの開始となる。

(3) 第80回全学教務協議会について

(審議事項)

・大学院における他専攻の授業科目の履修申合せの制定について
資料5に基づき説明があった。2の「他専攻科目は、別途定める」については、学修案内に掲載する。3には申請の流れが書いてある。3(2)のポイントは、指導教員が必要かどうかを判断することである。特に質問はなかった。

(報告事項)

・令和5年度学類・大学院開講科目「シラバス」登録について
資料6に基づき説明があった。1月31日が登録期限となっており、例年よりも締め切りが早い。

2. 学生生活委員会

(1) 3月卒業・修了学生の表彰の推薦について
資料7に基づき説明があった。LiveCampusでも周知している。

(2) 日本学生支援機構奨学金の大学院第一種奨学金返還免除について
資料は無く、口頭で説明があった。機構からまだ詳細な内容が届いておらず、募集はそれが届いてからとなる。

◆教員会議◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 共生システム理工学類規程等の一部改正について

資料8に基づき説明があった。前回の教員会議で報告した件に関連して、「社会とデータ科学の基礎」を追加し、「インターンシップ」を削除した。

(2) 令和4年度非常勤講師計画について

資料9に基づき説明があった。着色部の日程関係が変更となった。とくに質問は出なかった。

(3) 保護者への成績送付の実施について

まず、学類長から経緯の説明があった。保護者との懇談会で出された意見では、ぜひ送付してほしいという要望が多かった。他大学でも送付しているところが多い。学生指導は保護者の協力を得て効果的にできるので、教務委員会での検討と提案をお願いした。

資料10に基づき、委員長から説明があった。これまでは成績不振者のみに成績を送付していた。

保護者への成績送付には学生の同意が必要となるので、1年生はグループアドバイザーが、2年生は問題探究セミナーⅡの担当者が、3年生以上は研究室で指導教員が、それぞれ同意するように働きかけをしていただきたい。送付方法は特定記録郵便を使用する。

学類長から、同意の仕方や後援会から補助について付言があった。教授から、送ってほしい成績不振の学生が引きこもっていて親にも話せていない、同意をうまくとる方法は、との質問があった。これに関して、学類長から成績不振者には事前に同意を得て成績を送付しているとの説明があった。

2. 学生生活委員会

(1) 学生表彰申し合わせについて

資料2について、研究科委員会で説明済みなので省略された。

3. 学類入試検討チーム

(1) 令和7年度からの共生システム理工学類入試の検討結果について（一般選抜）

まず、学類長から経緯の説明があった。昨年12月の教員会議で改革の方向性が認められ、学類入試検討チームを組織した。評議員がヘッドで、教授2名、准教授の4名で検討してきた。今回は第1弾として一般選抜関係の説明をしていただく。

資料11の説明が評議員からあった。これは2年前予告用の案であり、まず検討スケジュールの説明があった。3月7日に公表することが決まっており、このデッドラインに向けて2月8日の教員会議で決める必要がある。今日は学類内でのスケジュールの提案①を説明した。

准教授から、高校の履修の実態を踏まえると、数学を全範囲にするのは無謀ではないかとの意見が出された。また、受験生が数学を全範囲とすることで受験しない可能性もあるとの指摘があった。検討チームの准教授から、今年の高校1年生から新課程の数学教育は始まったばかりで、教育実態がどうなのかを把握することは難しいことと、出題範囲を後から追加するのは難しく今の段階で外すのは難しいとの返答があった。准教授から出された意見に関して、検討チームと執行部で引き取って再度検討することとした。このほかに意見は無かった。学類長から、継続審議するとの発言があった。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 令和5年度3年次編入合格者のコース希望届について

プロジェクタ投影により説明があり、合格した6名の所属コースが決定したとの報告があった。

(2) 各分野の学類共通科目等の担当状況について

資料12に基づき説明があった。教授から、情報リテラシーのカウントの仕方について質問があり、別の教授からどの分野に所属する教員が担当するかによるのではとのコメントがあった。委員長から、修正の有無を確認するとの発言があった。

(3) 第80回全学教務協議会について
(報告事項)

・令和5年度教職科目の開講計画について
資料13に基づき説明があった。

・令和4年度優秀初年次レポートの選出について
資料14に基づき説明があった。理工学類では2月20日までに委員長に提出してほしいとの依頼があり、後日メールで1年生のグループ・アドバイザーに案内するとの付言があった。

2. 基盤教育委員会

(1) 単位認定型「インターンシップ」に代わる新科目の開講について
委員に代わって教務委員長から資料15の説明があった。「ワーキングシミュレーション」という科目名になる。

(2) 2023年度「社会とデータ科学の基礎」の授業運営について
教授から資料16の説明があった。タイトルは「授業運営」だが、これまでの全学での審議を経て学類に正式に降りてきたものである。時間割配置はコマ外(CAP対象外、オンラインのため)となる。Sなし評価になったことと、プログラム修了証の説明もあった。

3. 学生生活委員会

(1) 3月卒業・修了学生の表彰の推薦について
資料7はすでに説明済みのため、省略された。

(2) 成績不振者調査の報告について
資料17の説明があった。特に、2年生に問題のある学生が多い傾向である。学生相談室はパンク状態であることから、次年度より学生の相談に関する新たな取り組みを始めることを予定している。学類長から、相談のイベントは重要であるとの指摘があった。

4. 国際交流センター運営会議

(1) 2023(令和5)年度大使館推薦による国費外国人留学生(研究留学生)の受入れについて
回収資料に基づき、学類分の説明があった。セネガルからの国費外国人留学生で、事前の試験に合格すれば博士前期課程の学生として受け入れるとの補足があった。

5. 奨学寄附金の受入について

奨学寄附金が1件、受託研究が1件との報告が学類長からあった。

◆教育研究評議会◆

○第391回(12月20日開催)報告

【審議事項】

(1) 令和5年度基盤教育履修基準表の改定について(戻り報告)【資料1】
戻り報告であり、理工学類を含めて多くの学類からは特段の意見は無かったが、経済経営学類からは意見が出された。オンデマンドなのでCAP除外となるとの説明があった。

【報告事項】

(1) 大学院の改革について【資料2】

冒頭にて説明したため省略

(2) 令和3年度教員評価の実施結果について【資料3】

資料3-1は教員評価総括であり、目的や3項目の総括について説明があった。理工学類の外部評価委員は地域未来デザインセンター教授。3ページから全学の評価分布図が掲載されている。資料3-2には学類ごとグラフが掲載されており、R3年度の理工学類の評価も掲載されている。同資料4ページの緑の三角マークは平均値を示しているのので、後で資料を見ておいてほしいとの依頼があった。なお、研究教育評議会では、学類毎の評価結果も公開するののかとの質問が出され、全学執行部から公開するとの回答があったとの付言があった。

(3) ライデン大学統治国際情勢学部安全保障国際問題研究所と環境放射能研究所との連携に関する覚書の締結について【資料4】
オランダのライデン大学との覚書の締結について、評議会当日はIERの室長が説明したとの報告があった。

◆運営会議◆

○第181回（12月13日開催）報告

【報告事項】

(1) 令和5年度大学院教職課程の認定について【資料1】
冒頭にて説明したため省略

(2) 大学院の改革について【資料2】
冒頭にて説明したため省略

(3) 第4回数理・データサイエンス・AI教育連絡協議会について【資料3】
資料3-1資料の紹介があり、応用基礎レベルが求められているとの付言があった。

(4) 今後の自己点検・評価の進め方について【資料4】
資料4-1に基づき国立大学法人法の改正および法人評価の日程について説明があった。4年目終了時評価はR8年度（4～6月）に実施される。同資料4ページには短期的に検討が必要な項目が記されている。「運営計画」は全学および学類において、年2回の確認が求められている。

(5) 令和5年度に向けた事務組織再編等について【資料5】
事務協議会における検討状況の説明があった。資料5-1には、ホームページについて「各研究科のページの管理は総務課が担当、各専攻のページの管理は各専攻が担当と、役割を分担する」と書かれている。経営戦略強化策としての学長室改編についての記述もある。

(6) 「教育職員の昇給にかかる申合せ」の一部改正について【資料6】
資料6-1に基づき、組織の名称変更にもなう改正であるとの説明があった。

最後に、学類長から、2月8日の教員会議で人事委員と分野長の選挙を行うとのアナウンスがあった。また、准教授からDXに関するアンケートの協力依頼があった。

以上